

曽爾村

防災マップ

—この一冊があなたの命を守る—



避難情報

災害知識

避難の心得

地震情報

防災地図

わが家の防災メモ

いざという時の連絡先・安否情報の確認の手段などを、家族の間で確認しておきましょう。

わが家の避難場所

家族の集合場所

災害時の緊急連絡先

家族の名前

生年月日

血液型

会社・学校の電話番号

携帯電話番号

避難情報

避難所一覧

地域	No.	名 称	所 在 地	電話番号	避難所の指定		備 考
					土砂災害	地震	
山 粕	1	曾爾ふれあいセンター	大字山粕1665	94-2731	○	○	※
	2	曾爾村児童館	大字山粕1286	96-2406		○	
掛	3	掛農業集会所	大字掛650	96-2232		○	
長 野	4	長野公民館	大字長野1285-3	96-2245		○	
	5	曾爾小学校体育館	大字長野62	94-2020	○	○	※
	6	曾爾保育園	大字長野140-1	94-2301		○	
小長尾	7	小長尾公民館	大字小長尾249-1	94-2775	○	○	
	8	曾爾中学校体育館	大字小長尾900	94-2014	○	○	※
今 井	9	曾爾村振興センター	大字今井513-8	94-2101	○	○	※
	10	曾爾村防災センター	大字今井513-12	94-2101	○	○	※
	11	今井集落センター	大字今井754	96-2251		○	
塩 井	12	塩井集落センター	大字塩井908-1	96-2252		○	
	13	老人福祉センター	大字塩井991-1	96-2133		○	
葛	14	葛集落センター	大字葛800-1	94-2844		○	
太 良 路	15	太良路公民館	大字太良路633	94-2859		○	
	16	(独法)曾爾青少年自然の家	大字太良路1170	96-2121		○	
	17	ファームガーデン	大字太良路839	96-2888	○	○	※
伊 賀 見	18	伊賀見集落センター	大字伊賀見379	94-2531		○	
	19	曾爾子育て支援センター	大字伊賀見2881-1	94-2201		○	
	20	旧下曾爾小学校体育館	大字伊賀見39	—	○	○	※

※災害時要援護者関連施設
ケアハウス:災害時要援護者関連施設

緊急連絡先

警察110 消防(火災・救助・救急)119

役 場	曾爾村役場	0745-94-2101
電 気	関西電力(停電等)	0800-777-3081
電 話	NTT西日本(電話の故障)	113または0120-444-113(携帯電話・PHS)
水 道	曾爾村役場地域建設課	0745-94-2106
テレビ・インターネット	こまどりケーブル(株)(接続・故障等)	0120-950-144
消 防	奈良県広域消防組合宇陀消防署東分署	0745-95-3199
警 察	桜井警察署	0744-46-0110
	桜井警察署曾爾駐在所	0745-94-2304
診療所	曾爾村国民健康保健診療所	0745-94-2212

避難情報の種類と伝達方法



避難準備 高齢者等 避難開始

避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始しましょう。

高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦など

避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始しましょう。

避難勧告

速やかに避難場所へ避難しましょう。

外出することがかえって命に危険が及ぶような状況では、
近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。

避難指示 (緊急)

まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難しましょう。

外出することがかえって命に危険が及ぶような状況では、
近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。

伝達方法

防災行政無線、緊急速報メールなどで、みなさんへ伝えられます。

情報の収集方法[インターネットから]

風水害は、最新の気象情報などを入手することで、時期や規模を予想することができます。
テレビやラジオの報道に注意し、近所の人々と連絡を取りましょう。特に、インターネットやテレビの
データ放送は、自分の知りたい情報を得ることができるので積極的に情報を集めることができます。

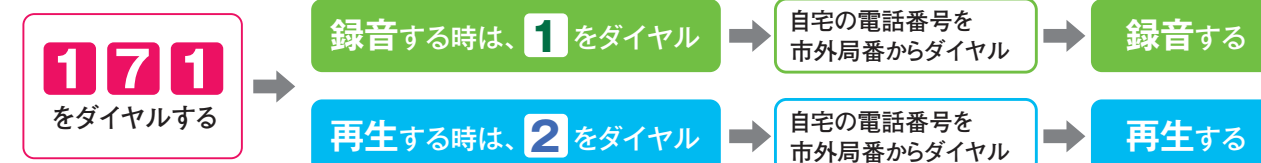
奈良県ホームページ(防災・危機管理) <http://www.pref.nara.jp/1825.htm>
(砂防・災害対策課) <http://www.pref.nara.jp/1681.htm>
(川の防災情報) <http://www.pref.nara.jp/43968.htm>

気象庁ホームページ(気象庁ホーム) <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
(防災情報奈良県) <http://www.jma.go.jp/jma/bosai/nara.html>

災害伝言ダイヤル (NTT西日本) <https://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

災害用伝言ダイヤル

「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生をしてください。



土砂災害

土砂災害(特別警戒区域とは

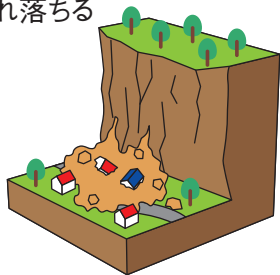
- **土砂災害警戒区域(イエローゾーン)**
崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれのある区域
- **土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)**
崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれのある区域

土砂災害の知識

台風や集中豪雨、地震などにより、いろいろな土砂災害が予想されます。特に造成地や河川敷、山岳地帯などでは十分な警戒が必要です。土砂災害警戒情報に注意しましょう!

● がけ崩れ

急な斜面が大雨等によって緩み、とつぜん崩れ落ちる現象です。



● 土石流

谷や溪流から、土砂や石、木を含んだ濁流が、すごい勢いで押し流される現象です。



● 地すべり

比較的広い範囲にわたり雨水を含んだ土地が、ゆっくりと動き出す現象です。

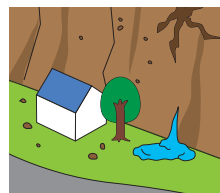


土砂災害が起こる時

土砂災害のほとんどは、梅雨や台風の時期に発生しています。長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるためです。それらの前兆となる現象を理解しておきましょう。

がけ崩れの前兆現象

- がけから小石がパラパラと落ちてくるようになった時
- がけから水が湧き出てきた時
- がけに割れ目ができた時



土石流の前兆現象

- 「山鳴り」といって、山全体がうなるような音がする時
- 川の流れが濁ったり、流木が混じっている時
- 雨が降り続けているのに、川の水が減っている時



地すべりの前兆現象

- 井戸の水が濁った時
- 地面がひび割れたり、一部が陥没あるいは隆起した時
- 池や沼の水の量が急激に変化した時



風水害

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報単語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。 	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。 	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。 	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

外壁

- モルタルの壁に亀裂はありませんか

ベランダ

- 植木鉢や物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか

ブロック塀・板塀 など

- 傾きやひび割れ、破損している箇所はありませんか

排水溝

- 側溝や雨水ますにごみや土砂はありませんか

屋根・雨どい

- 不安定なアンテナなどはありませんか
- トタンなどがめくれていませんか
- 瓦のひび・割れ・はがれなどはありませんか
- 雨どいにごみや木の葉が溜まっていますか

窓

- 窓枠のがたつきはありませんか
- 雨戸のがたつきはありませんか

その他

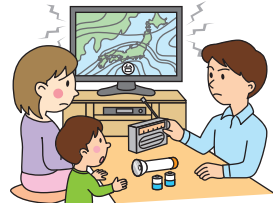
- ガスボンベは固定していますか
- 商店などでは看板のぐらつきはありませんか
- ごみ箱や植木鉢などは、飛ばないように固定していますか
- 庭木には添え木をしていますか
- 窓ガラスが飛散しないような対策をしていますか

避難の心得

避難のポイント

正確な情報の入手

テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



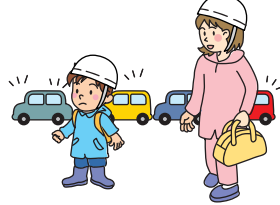
安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域を避けるようにしましょう。



徒歩での避難が基本

車での移動は緊急車両の通行のさまたげになります。また浸水すると車が動けなくなりますので、特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。



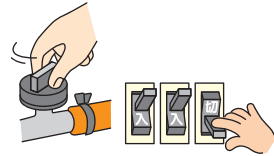
万が一、逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



要配慮者への協力

お年寄りや子供などは早めの避難が必要です。近所のお年寄りが避難する場合には、協力しましょう。



動きやすい服装での避難を

避難するときは、動きやすい服装で2人以上での避難を心がけましょう。



要配慮者への協力(災害時)

高齢者、乳幼児、病人

できる限り複数の人で対応しましょう。必要に応じて、ひも等の道具を用いて背負い、安全な場所へ避難しましょう。



目の不自由な方

誘導するときは、杖を持たず、ひじのあたりを軽く触れるか、腕をかけて半歩前をゆっくり歩きましょう。



耳の不自由な方には

話しかける場合は、口を大きく動かし、はっきり相手にわかりやすく伝えましょう。



からだの不自由な方には

階段での介助では2人以上が必要となるため、周りの人に協力を求めましょう。



地震情報

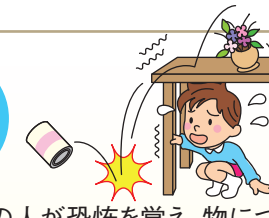
地震の強さと被害

震度4



- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

震度5弱



- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度5強



- 物につかまらなと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6弱



- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性が弱い木造建物は瓦が落下したり、建物が傾いたり倒れるものもある。

震度6強



- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

震度7



- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが増える。

地震が起きた時の行動

グラッときたら

地震発生

最初の大きな揺れは約1分

命を守る

- 落ち着いて、自分の身を守る
- ガスの元栓を締めるなど火の始末をする
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する



1~4分

家族を守る

- 揺れが収まってから行動
- 家族の安全を確認
- 火の元を確認・初期消火
- 足をケガしないように靴をはく
- 必需品を手元に用意する
- 余震に注意



5~10分

地域を守る

- 隣近所の安全を確認
- ラジオなどで情報を確認
- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める
- 火が天井に達したり家屋倒壊などのおそれがあれば避難する



10分~数時間後

避難生活

助け合いの心で...

- 協力して消火・救出活動
- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家に入らない
- 引き続き余震に注意
- 避難所では集団生活のルールを守る





非常持出品・備蓄品

リュックサックなどに入れておき、避難しなければならないときに持ち出す「非常持出品」と、避難後の生活を支える「非常備蓄品」の2段階で準備しておく必要があります。

リストを参考に、個人や家庭に必要なものをしっかり準備しておきましょう。

非常持出品チェックリスト

チェック欄	品 名
貴重品類	現金
	預金通帳
	印鑑
	保険証
	免許証
避難用具	懐中電灯
	携帯ラジオ
	予備電池
	ヘルメット・防災ずきん
非常食品	乾パン
	缶詰
	栄養補助食品
	アメ、チョコレート
	飲料水
救急用具	救急セット
	処方箋の控え
	胃腸薬、便秘薬、持病の薬
	生理用品
	紙おむつ(高齢者用、乳幼児用)

チェック欄	品 名
生活用品	軍手(厚手の手袋)
	毛布
	缶切り
	ライター、マッチ、ろうそく
	ナイフ
	携帯用トイレ
	使い捨てカイロ
	ウェットティッシュ
	筆記用具
衣料品	携帯電話(充電器含む)
	下着、靴下
	長袖、長ズボン
	防寒用ジャケット、雨具



非常備蓄品チェックリスト

避難した後、安全を確認して自宅へ戻り、自宅で避難生活を送ることや、避難所へ持ち出すことを想定し、3日分の生活に必要な備蓄品を備えておきましょう。

一日最低3日分は
用意しておきましょう

チェック欄	品 名
飲料水	9リットル(3リットル×3日分)
ご飯(アルファ米)	4～5食分
ビスケット	1～2箱
板チョコ	2～3枚

チェック欄	品 名
乾パン	1～2缶
下着	2～3組
衣類	スウェット上下、セーター、フリースなど

食料品・生活消耗品の備蓄には「ローリングストック法」が有効です。

ローリングストック法とは、定期的(1か月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法。食べながら備えるために消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱うことができます。消費期限を考えながら計画的に消費し、消費した分は新たに購入するようにしましょう。

